

第8回 建設トップランナーフォーラム

2013.07.02



平成25年 第8回建設トップランナーフォーラム インフラの町医者をめざして

日 時：平成25年7月2日（火）9：30～18：00
 会 場：日本建築学会 建築会館ホール 東京都港区芝5-26-20（JR田町駅、地下鉄三田駅徒歩3分）
 会 費：無料（資料代1,000円／冊）
 主 催：建設トップランナー倶楽部 共 催：日本青年会議所建設部会
 後 援：全国建設業協会 日本プロジェクト産業協議会 建築技術支援協会 地方建設記者の会

開催趣旨

地域建設業は、災害が多発する日本列島の地域防災の最前線。
 地域建設業は、老朽化する社会インフラを点検し維持する地域の町医者。
 地域建設業は、複業により公共投資を産業創出につなげる地域の総合企業。
 そこに在ることが安心感につながる町医者のような地域建設業をめざそう。

申込方法

下記ホームページの申込フォームからお申込みください。

www.kentop.org/

懇親会

フォーラム終了後、下記の通り懇親会を開催します。奮ってご参加ください。（会費 5,000円）
 18時-18時30分 ウェルカムドリンク
 建築会館ホール・ホワイエ（ホール準備の間）
 18時30分-20時 懇親会
 建築会館ホール（日本建築学会）

インターネットで実況中継(ustream)

当日、建設トップランナー倶楽部のホームページ <http://www.kentop.org/> をご覧下さい

参考書籍の頒布を予定

「複業のすずめー地域建設業の挑戦」
 建通新聞社 米田雅子＋地方建設記者の会
 「大震災からの復旧・知られざる地域建設業の闘い」ぎょうせい 米田雅子＋地方建設記者の会

プログラム

- 【9時30分-10時】**
 開会のことば 日本青年会議所2013年度建設部会長 田井慶一郎 千葉県
 趣旨説明 建設トップランナー倶楽部代表幹事・慶大 米田雅子
 来賓挨拶 国土交通大臣 太田昭宏 (時間未定)
 農林水産大臣 林 芳正 (時間未定)
 内閣府特命担当大臣(国土強靱化、防災担当) 古屋圭司 (時間未定)
 衆議院議員 元国土交通大臣 金子一義 (時間未定)
- 【10時-11時15分】 第1部 連携が新しい価値を生む**
 アドバイザー 国土交通省 技術審議官 深澤淳志
 経済産業省 大臣官房審議官 横田俊之
 介護とリフォームで雇用創出 セントラル建設社長 阿部伸一郎 岐阜県
 ミラクルソルで日本水大賞 日本建設技術社長 原 裕 佐賀県
 環境・エネルギーへの展開 中村建設社長 中村信吾 静岡県
- 【11時15分-12時30分】 第2部 複業により地域を活性化する**
 アドバイザー 林野庁長官 沼田正俊
 農林水産省 大臣官房地方課長 塩川白良
 おいしい野菜と森林整備 豊明建設社長 林 正英 鹿児島県
 地域ブランドへの挑戦 植村建設取締役 植村真美 北海道
 三宅島の緑化と島おこし 伊豆緑産社長 石森良房 東京都
- 【12時30分-13時30分】 昼休み 休憩**
- 【13時30分-14時45分】 第3部 災害から地域を守る**
 アドバイザー 元国土交通事務次官 谷口博昭
 日本建築学会会長・倶楽部代表幹事 和田 章
 東北復興の現状と課題 深松組社長 深松 勇 宮城県
 豪雨災害の復旧と山村再生 川口建設社長 川口明久 和歌山県
 地域建設BCPの提案 日本青年会議所建設部会 真鍋浩章 徳島県
- 【14時45分-16時】 第4部 老朽化から社会インフラを守る**
 アドバイザー 元国土交通事務次官 青山俊樹
 西村あさひ法律事務所 代表パートナー 松嶋英穂
 世界遺産・知床の道を守る 斜里建設工業社長 土田好郎 北海道
 岐阜県メンテナンスエキスパート 丸ス産業 加藤十良 岐阜県
 青森県植染アセットへの取組み 中編組社長 羽賀義宏 青森県
- 【16時-16時15分】 休憩**
- 【16時15分-17時55分】 パネルディスカッション「インフラの町医者をめざして」**
 キーノートスピーチ
 岐阜県知事 古田 肇 岐阜県
 パネラー 国土技術研究センター理事長 大石久和
 愛亀 社長 西山 周 愛媛県
 日本青年会議所2013年度建設部会長 田井慶一郎 千葉県
 コーディネータ 建設トップランナー倶楽部代表幹事・慶大 米田雅子
- 【17時55分-18時】**
 閉会の言葉 日本青年会議所25年度フォーラム実行委員長 真鍋浩章 徳島県
- 【18時-20時】 交流会**

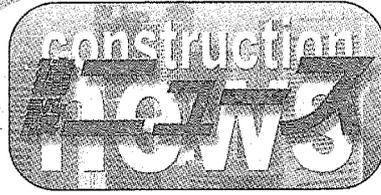
問合せ先：建設トップランナー倶楽部
 事務局 〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-4 ワイビルス2階 米田事務所内
 田中清子、大星茂登子（NPO建築技術支援協会）

TEL: 03-5876-8461 FAX: 03-5876-8463
 mail: info@kentop.org
 ホームページ: <http://www.kentop.org/>



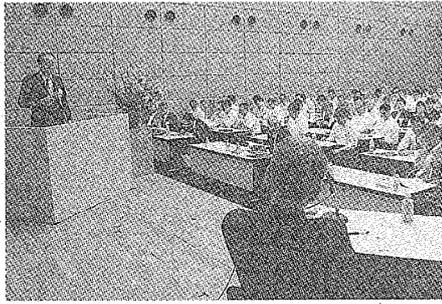
発行所 建設新聞社

土 仙台市青葉区春日町7-5 TEL022(221)4601(大代)
 司 青森市古川1丁目21-11 TEL017(722)8631代
 司 盛岡市菜園1丁目3-6 TEL019(651)8045代
 司 秋田市山王4丁目3-10 TEL018(862)6921代
 司 山形市松波1丁目10-16 TEL023(641)2800代
 司 福島市宮下町17-20 TEL024(534)0138代
 司 東京都江東区豊洲1-3-2 TEL03(5547)1367



目指せインフラの“町医者”

第8回トップランナーフォーラム



新規事業、災害対応などの事例紹介

地域建設業は存在そのものが安心感につながる「町医者」を目指すべき。建設トップランナー倶楽部(代表幹事・米田雅子慶応大学特任教授)は2日、東京都内で「第8回建設トップランナーフォーラム」を開き、災害への対応や老朽化した社会インフラの適切な維持管理、そして地域の雇用を守るのが地域建設業者の役割であることを全国の参加者とともに確認。新規事業や災害復旧など「町医者」として活躍する全国のトップランナーがその取り組みを紹介した。

冒頭、主催者を代表して米田代表幹事が「地域建設業には防災の最前線での活動、老朽化するインフラの点検と維持、そして公共投資でインフラを整備しつつ“復業”に

よる産業創出・雇用確保という大きく三つの役割がある」と今回のテーマを説明。「地域に存在することが安心感につながる「町医者」のような地域建設業を目指すべきだ」と述べた。

村信吾社長が「環境・エネルギーへの展開」をそれぞれ紹介。阿部社長は、舗装專業業者、たつた同社が介護用品レンタル事業を足掛かりにリフォームなどに乗り出し、着実に業績を伸ばしている現状を説明。

「建設と介護の副業化で相乗効果が高まり、新たな建設需要と介護需要を取り込むことができる」と述べた。

この後、全国のトップランナーが復業による地域の活性化や、災害から地域を守る取り組み、老朽化から社会インフラを守る取り組みを紹介した。来賓として訪れた林芳



「東日本大震災で、地域建設業は『地域の救命救急医』として機能した」。深松組(仙台市)の深松努社長は「東北復興の現状と課題」をテーマに講演し、大震災で地域建設業が果たした役割の大きさをあらためて強調した。その上で「今後、皆さんに地域でも必ず災害が起こる。その時に地域を守ることができなければ、地域建設業しかない。今のうちから備えておいてほしい」と訴えた。

深松社長は大震災での取り組みについて「道路啓開やがれき撤去に加え、犠牲者の仮埋葬と掘り起こし、腐敗した水産

地域の救命救急医として機能

深松努氏が講演

を始めようとしている。6次産業化の中で「経営する」という感覚が必要であり、コストを下げつつどのように売っていくのが大事。皆さんの持つ経営力を農林水産業に生かしてほしい」とトップランナーの取り組みに期待を寄せた。

加工物の海洋投棄なども担った。しかし、こうした活動は一般の人々にはあまり知られていない」と述べ、地域建設業の存在を社会に周知していく必要性を指摘した。

また、復旧・復興事業の課題として▽労働者の確保と賃金上昇への対応▽資機材の供給・確保▽公共工事設計価格への実勢価格の即時反映▽技術者専任制での技術者の確保▽復旧・復興事業での入札契約制度の確立▽地域建設業の復興などを挙げた。

このうち、労働者の確保をめくっては、「2013年度に公共工事設計労務単価を大幅に引き上げてもらったが、ピーク時に比べるとまだまだ低い。労務単価をより抜本的に引き上げるべき」と提案した。

建設新聞

2013

8月9日

金曜日

紙・包装資材
保険代理業・不動産



株式会社 赤澤紙業

仙台支店 / 〒984-0015 仙台市若林区卸町2丁目12-11
TEL.022-235-4251(代) FAX.022-232-4256

インフラの
町医者 全9回の6
をめざして
第8回建設トップランナーフォーラムより
- 第3部 -

第3部「災害から地域を守る」では、「東北復興の現状と課題」と題して深松組(宮城県)の深松努氏、「災害対応と林業再生の取り組み」と題して川口建設(和歌山県)の川口明久氏、「地域建設BCPの提案」と題して日本青年会議所建設部会中長期政策推進会議(徳島県)の真鍋浩章氏が事例発表した。



深松組の深松社長

「東日本大震災で、地域建設業は『地域の救命救急医』として機能した」。深松組(仙台市)の深松努社長は「東北復興の現状と課題」をテーマに講演し、大震災で地域建設業が果たした役割の大きさをあらためて強調した。その上で「日本のどこでも必ず災害は起こる。その時に地域を守る事ができるのは地域建設業しかない」と訴えた。

地域建設業は救命救急医「東日本大震災で、地域建設業は『地域の救命救急医』として機能した」。深松組(仙台市)の深松努社長は「東北復興の現状と課題」をテーマに講演し、大震災で地域建設業が果たした役割の大きさをあらためて強調した。その上で「日本のどこでも必ず災害は起こる。その時に地域を守る事ができるのは地域建設業しかない」と訴えた。

路啓開やがれき撤去に加え、犠牲者の仮埋葬と掘り起こし、腐敗した水産加工物の海洋投棄なども担ったが、一般の人々にはあまり知られていない」と述べ、地域建設業の取り組みを社会に周知する必要性を指摘した。

また、復旧・復興の課題として▽労働者の確保と賃金上昇への対応▽資機材の供給・確保▽公共工事設計価格への実勢価格の即時反映▽技術者専任制での技術者の確保▽復旧・復興事業での入札契約制度の確立などを提示。特に労働者の確保をめぐっては「労務単価をより抜本的に引き上げるべき」と提案し

災害から地域を守る

去に幾多の被害をもたらした災害を防ぐことが狙いだ。講演で川口氏は「地域に住む者が立ち上がらなければ何も始まらない」と、地域建設業の率先した取り組みの必要性を訴えた。

立ち上げれば何か始まる。「災害対応と林業再生の取り組み」をテーマに講演した川口建設(和歌山県田辺市)の川口明久社長は、山林の再生に向けて木材を有効活用する事業を進めている。雇用を維持・創出するとともに、過



川口建設の川口社長

目、木材の不燃化を足がかりに、間伐材の木質プラスチック化、木質バイオマス事業などを幅広く展開してきている。

で落ち込んだ。これに危機感を持った川口氏は、豊富な森林資源に囲まれた地域特性に着

2011年の台風12号では、各地で地滑りなどが発生し、和歌山県だけで60人以上の死者・行方不明者を出した。川口氏は「同

東日本大震災を機に、BCP(事業継続計画)策定の必要性を全国に発信する日本青年会議所建設部会。中長期政策推進会議の議長を務める真鍋浩章氏(徳島ブロック建設クラブ)は、「地域建設業者の対応は極めて重要とし、広域的なネットワークを生かしたBCP支援システムの構築に組織を挙げて取り組む。

震災以降、BCPを策定している建設業は増加傾向にあるものの、専門業者やリースの、資材業者などの対応は取班)」

「災害が起きても、事業を存続させていくことが優れた企業の証。信頼性や地域貢献など社会的評価にもつながる」と真鍋氏。今後、相談窓口の設置や連携支援体制システム構築、策定企業の状況管理に努める。



JC建設部会の真鍋氏